

# 普通期米 中干しから穂肥管理

## 1. 生育状況

本年の普通期米については、6月8日に梅雨入り（平年6月5日）し、6月27日に梅雨明け（平年7月19日）しました。

田植えは平年並みからやや遅く推移しています。田植え後の生育は高温で推移しましたが、6月中下旬の降雨によりジャンボタニシの食害が見られます。また、梅雨の時期が短かったため、水不足が懸念されます。

今後は、中干しから穂肥・出穂時期を迎えるため、生育時期に合わせて適切な管理を徹底しましょう。

## 2. 水管理

中干しは大変重要な管理となります。分けつが確保出来ないほ場では軽めの中干しを実施しましょう！！

中干し後から出穂前7日までは間断灌水を行い、長期間の白乾はしないよう様に心がけましょう。

出穂7日前（オオバラの時期）から出穂7日後までは白乾させない。 出穂後は、間断灌水を実施し、可能であれば夜間に入水し、地温を下げましょう。

中干しは黒乾状態を維持し、極端な乾かしすぎ（白乾状態）に注意して下さい。また、穂肥時期は、肥料が溶ける程度の水があれば十分です。

田植え前にケイ酸加里を入れてない場合、出穂45日前（中干し開始頃）に30kg/反を施用しましょう！！（充実向上、層米減少）

稲で一番水が必要な時期は、出穂前後となりますので、地域で話し合い、用水の計画利用をお願いします。

## 3. 穂肥目安（高温多照で経過した場合、例年に比べ2日程度早くなると思われます。）

穂肥は、収量に影響を与える大変重要な作業となります。ほ場毎に生育状況を観察し適切な施肥を実施する必要があります。穂肥は、必ず2回に分けて施用しましょう。（穂肥一発以外）

（葉色） 夢つくし・元気つくし 4.2、ヒノヒカリ 3.8、にこまる 4.0 茎数 20本 幼穂 2mm 基準（ハイマート C50・ハイライス 50を施用） ※2回目の時期は1回目の施肥後1週間頃行なう。

	夢つくし	元気つくし	ヒノヒカリ	にこまる
6/10～6/20 田植え	1回目 7/17～7/23 ① 20kg ②10kg	1回目 7/22～7/29 ① 15kg ②15kg	1回目 8/1～8/8 ①15kg ②15kg	
6/20～ 田植え	1回目 7/20～7/28 ① 20kg ②10kg	1回目 7/25～8/3 ② 15kg ②15kg	1回目 8/5～8/15 ①15kg ②15kg	1回目 8/8～8/17 ①15kg ②15kg

◎穂肥一発肥料を使用する場合は一回目の時期に15～20kgを施用しましょう。

◎葉色の判断・・・葉色板を使用する場合は、太陽に背を向け3～4m先の葉を見て判断する。

葉色板を使用しない場合は、畔に生えているイネ科の雑草と同色であれば、3.8と判断します。

◎増収のポイントは、穂肥全体量の2～3割を畔回りに施用をする。

◎野菜跡、堆肥投入田等、葉色の濃い田は、色が落ちれば2回目の時期に色直し程度の施肥を行う。

#### 4. 病害虫

ウンカ	現在、ウンカの飛来は平年より少ない飛来となっておりますが、今後、発生する可能性があります。圃場の確認を行い注意しましょう。
いもち病	現在までいもち病の発生は少ないですが、 <u>今後の天候によっては日照りいもちの発生が考えられるので、田周りをしっかりと行い、よく観察しておく必要があります。</u> ★使用薬剤 <b>ワイドナーエース粉剤 DL 3～4 kg/10 a</b> または、 <b>ノンプラスフロアブル 1000 倍</b>
紋枯病	昨年発生した圃場は発生が予想されます。また、 <u>高温で発生を助長するため注意！！</u> ★使用薬剤 <b>ワイドナーエース粉剤 DL 3～4 kg/10 a</b> または、 <b>バリダシン液剤 1000 倍</b>
カメムシ	本年は平年より多く発生しており、必ず防除してください。 ① <u>稲の出穂前に畦畔の草刈りを行う。その際、雑草の穂が出穂する前に草刈りを行うことが重要。</u> ②散布適期は出穂期頃  使用薬剤 <b>エクシード粉剤 3～4 kg/反</b> または <b>エクシードフロアブル 2000 倍 100L/反</b>

#### 5. 雑草対策

雨等により除草剤が散布できていない圃場については、中期除草剤でしっかりと対策を行いましょう。

ヒエ	液剤	<b>クリンチャーEW</b> ノビエ6葉期まで 薬量 100cc を水 25～100ℓに入れる。 落水処理 <b>ロイヤント乳剤</b> ノビエ5葉期まで 薬量 200cc を水 25～100ℓに入れる。 落水処理
	粒剤	<b>ウィードコア1キロ粒剤 (飼料米は使用不可)</b> ノビエ4葉期まで 1 kg/10a 湛水散布
広葉雑草	液剤	<b>バサグラン液剤</b> イネ科を除く1年生雑草 薬量 500cc～700cc を水 70～100ℓに入れる。 落水後に処理 薬害対策として高温時の散布を避ける。
	粒剤	<b>バサグラン粒剤</b> イネ科を除く1年生雑草 3～4 kg/10a 湛水処理
ヒエ 広葉雑草	液剤	<b>クリンチャーバス ME</b> ノビエ5葉期まで 薬量 1000cc を水 70～100ℓに入れる。 落水後に処理
	粒剤	水が少ない場合は、極浅水で <b>ヒエクリーンバサグラン</b> ノビエ4葉期まで (収穫 60 日前まで) 3kg/10a <b>極浅水散布</b>

※雑草が小さいほど効果が高いため、除草剤は早めに散布する。雑草が残ると肥料を取られ(充実不足)、風通しが悪くなり病害虫の発生を助長するなど、様々な問題を引き起こします。

※本年は藻の発生が多くなっており、初期除草剤の効果が劣る圃場も見られますので早めの雑草対策をする

※農薬散布の際は、周辺作物等に飛散がないよう十分注意してください！！

以上の管理を徹底し、高品質・高収量を目指し、1俵でも多くのお米を農協へ出荷して頂きます様、宜しくお願い致します。

※栽培履歴の随時適正記帳を行いましょ！